

平成 30 年度 専科（第 45 期） 試験問題

【財務諸表論（個資徴班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないでください。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）、
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B 又は 2 B に限る。）、
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
- 2 答案用紙の追加配付は行いません。
書き損じた場合は使用した筆記用具により次のとおり対応してください。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないでください。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないでください。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じません。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げてください。
- 6 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合があります。

【第1問】

収益を認識するためのステップの1つとして、取引価格の算定がある。取引価格の算定について、企業会計基準第29号「収益認識に関する基準」と企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」に従い、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 取引価格を算定する際の仮定について述べなさい。

問2 取引価格を算定する際には、変動対価の影響を考慮しなければならない。変動対価の定義を述べ、変動対価のうち取引価格に含められる部分について説明しなさい。

問3 返品権付きの販売は不確実な数量を販売するので、変動対価を含む販売形態である。取引価格が算定された後に、返品権付きの販売をどのように処理するか、その会計処理について述べなさい。

【第2問】

買入のれんについて、次の問1から問2までの各問に答えなさい。

問1 買入のれんの会計処理については、①「買入のれんを規則的に償却する」会計処理と②「規則的償却は行わず、買入のれんの価値が損なわれたときに減損処理を行う」会計処理がある。2つの会計処理の論拠について述べなさい。

問2 わが国の買入のれんの会計処理について述べなさい。

【第3問】

純資産の部は個別貸借対照表上、株主資本と株主資本以外の項目に区分され、株主資本以外の項目には評価・換算差額等と新株予約権がある。純資産の部について、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 個別貸借対照表における株主資本の区分に言及しながら、株主資本の源泉別分類について論じなさい。

問2 評価・換算差額等はどのような性格の項目であるかを簡潔に述べなさい。

問3 新株予約権が負債の部でなく、純資産の部に記載される論拠について述べなさい。

平成 30 年度 専科（第 45 期） 試験問題

【財務諸表論（法人課税班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないください。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）、
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B 又は 2 B に限る。）、
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
- 2 答案用紙の追加配付は行いません。
書き損じた場合は使用した筆記用具により次のとおり対応してください。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないください。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないください。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じません。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げてください。
- 6 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合があります。

【第1問】

企業会計における収益及び費用の認識に関連して、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 収益及び費用の認識基準としての発生主義の意味について説明しなさい。

問2 収益の認識基準としての伝統的な実現主義における「実現の2要件」を示すとともに、実現主義が採用される論拠を明らかにしなさい。

問3 企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」においては、収益の認識はどのように行なわれるか、収益認識の5つのステップを示しながら説明しなさい。

【第2問】

企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に基づき、企業が保有する有価証券の会計に関連して、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 「売買目的有価証券」及び「その他有価証券」の期末における会計処理について、その論拠とともに述べなさい。

問2 強制評価減（減損処理）はどのような場合に行われるか、対象となる有価証券を明らかにした上で説明しなさい。

問3 財務諸表における有価証券の表示区分について述べなさい。

【第3問】

資産除去債務の会計に関連して、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 資産除去債務とは何か、その意味を述べなさい。

問2 資産除去債務の会計処理方法には、「引当金処理」と「資産負債の両建処理」の2つの方法が考えられる。それぞれの処理方法の内容を説明しなさい。

問3 我が国の会計基準では、上記【第3問】問2にある2つの会計処理方法のうち、どちらの方法が採用されているのか、その理由とともに述べなさい。